



未来を切り拓く力の育成～大一探究プログラム～

校長 吉川 信次

先日、高学年の子どもたち数名が防災についての自分たちの考えを話しに校長室に来ました。学校で大きな地震が起きたときに、自分たちの身を守るために防災頭巾ではなく防災ヘルメットの導入を検討してほしいという内容でした。防災ヘルメットの利点と課題点を挙げ具体的な小学校の事例を紹介しながら提案してきましたのです。私はいくつか質問しながらも、どのように回答すればよいのか、ヘルメットの導入は可能なのか、どうなのか、いろいろな思いを巡らせて聞いていました。そして、高学年の子どもたちは「もう少し調べてみます」という言葉を残し、一旦終了となりましたが、私自身も防災頭巾について考えなくてはならないと思いました。

防災頭巾は太平洋戦争中の「防空頭巾」に由来しています。そして、現在の防災頭巾の原型は、1923年（大正12年）に発生した関東大震災後に考案され、落下物から頭部を守る必要性が認識され、座布団を改良した「防護頭巾」が開発されたそうです。学校への導入は、1960年代後半から1970年代にかけて、学校での防災意識が高まり、防災頭巾が徐々に学校に導入されるようになりました。1978年の宮城県沖地震を契機に、防災頭巾の重要性が再認識され、多くの学校で採用され、幅広く普及していったそうです。現在では多くの小学校で採用されていますが、防災意識がより高くなってきた昨今、自治体によっては防災ヘルメットの導入について議論、検討しているところもあり、様々な議会でも話題になることがあるのです。品川区では以前より、区立学校7年生以上の生徒には、防災ヘルメットを貸与しており、卒業時には自宅用として使用できるようになっています。

子どもたちのこの提案は市民科学習「大一探究プログラム」の取組の一つなのです。防災以外にも「品川伝統の品川飯を給食に導入できないだろうか」「いじめ防止の取組を自分たちで企画し実践したい」「地域の伝統ある八百屋さんを盛り上げたい」「高齢者施設の方と交流したい」「米の消費を促す取組を考え実践したい」等、多岐に渡ります。5・6年生が学校や地域、社会の課題を真正面から捉え、問いを立て、情報を収集し、仮説を立て、実践し、検証していく学習を展開しているのです。学習を通して子どもたちは、様々な立場の方々と関わり、話を伺うだけでなく、提案したり、一緒に協力し合ったりしています。この姿こそが今求められている*「エージェンシー」に繋がる学習活動であると考えています。

*【エージェンシー】

これからの社会を生きる子どもたちに育成したい力について、OECD（経済協力開発機構）を中心として国際的な検討が活発に行われています。OECDは、「教育とスキルの未来2030プロジェクト」を進め、2019年5月に、「OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）」を発表しました。「エージェンシー」はその中心的な概念として、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力（the capacity to set a goal, reflect add act responsibly to effect change）」と定義されています。

本校では「未来を切り拓く力の育成」を全教職員が本気になって目指しています。11月8日（金）に教員、教育関係者向けの研究発表会を行います。当日の学校公開（5校時のみ）では子どもたちの学びの姿を見ていただければと思います。また、12月7日（土）第1回探究学習発表会では全学年の発表を予定しております。是非足をお運びください。

大一体育祭を終えて

体育祭委員長 馬場 久寿

令和6年度 大一体育祭スローガン
全力で優勝目指して走り切る！
出来ないことは何もない！

今年の体育祭は、あいにくの雨で1日順延となりましたが、翌日には皆様のご協力のおかげで、無事に開催することができました。子どもたちの笑顔があふれる素晴らしい一日となりました。

今年の体育祭でも子どもたちの成長を感じられる場面がたくさんありました。練習の時から大きな声を出し、勝利を目指して一致団結する姿、練習の成果を発揮し、最後まで諦めずに頑張りぬく姿など、体育祭を通して成長する子どもたちに大きな喜びを感じました。閉会式での結果発表の際、優勝を信じて祈る子どもたちの様子もこれまで真剣に練習に取り組んできたからこそ見られた素晴らしい姿だったのだと思います。

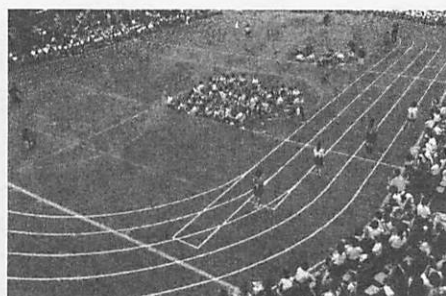
また、応援団やリレー、係活動など6年生が中心となり、リーダーシップを存分に発揮しました。自分たちだけで各色の応援を考えたり、下級生にバトンパスについて教えながら練習に取り組んだりする頼もしい上級生としての姿が見られました。そのような6年生だからこそ1年生から5年生の子どもたちは安心して様々な活動に取り組むことができ、子どもたちが作り上げた素晴らしい体育祭になったのだと思います。

体育祭の成功には、保護者の皆様のご協力が不可欠でした。日程が変わったことによる様々なご準備、当日までの健康管理など、体育祭に向けて多大なご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。当日は子どもたちへの温かい声援が送られ、大きな力になったことと思います。

今回の体育祭で得た経験を活かし、今後も子どもたちの成長をサポートしてまいります。体育の授業だけではなく、様々な活動を通して、心身ともに健やかな子どもたちを育てていきます。



<応援団長による選手宣誓>



<高学年リレーのスタート直前の様子>

探究学習スタート！

3年担任 奥 優香里

第3学年の探究学習テーマ

大森貝塚博士になろう ～今に伝わる品川の歴史～

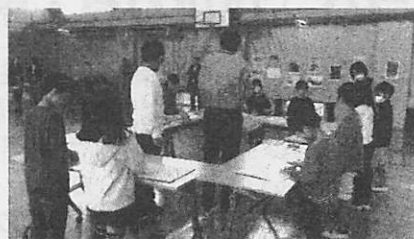
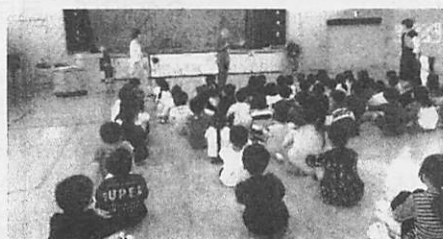
9月19日（木）品川歴史館の見学に行き、大森貝塚の成り立ちや、当時の人々の暮らしについて学習しました。見学したことから、今と昔の暮らしを比較し、共通点や相違点を見つけました。共通点として、「動物を食べること」「大人が働いていること」「家を建てて暮らしていること」を挙げ、相違点として「動物を狩る道具」「ゴミを自然に返していること」「電化製品を使っていないこと」などを挙げていました。

この気付きをさらに深めるために、10月10日（木）NPO 法人国際縄文学協会の関俊彦先生をゲストティーチャーとしてお招きしました。当時の暮らしについてのお話をさらに詳しく聞くとともに、人々がどのような道具を使い、どのような暮らしを送っていたのかについて体験的な学習を行いました。子どもたちが興味をもった内容をいくつか紹介します。

- どのように食料を手に入れたのか。
- どのように調理していたのか。
- 村の数はどのくらいだったのか。
- どんな言葉が使われていたのか。
- 大森貝塚を発見・発掘したモース博士はどんな思いで、生涯研究を続けることができたのか。

お話や体験を通して、さらに貝塚が作られた当時の暮らしやモースに興味をもてたようでした。

現在では、一人一人の興味関心をもとにしたテーマ設定を行い、複数のグループに分かれて探究学習を進めています。12月7日（土）の探究学習発表会をどうぞ楽しみにしてください。



年間重点生活目標「正しい姿勢を意識して生活しましょう！」

今月の生活目標

生活のめあて

チャイムスタートをしましょう

保健のめあて

うがいと手洗いをしましょう

給食のめあて

感謝して食べましょう

11月の予定

日付	曜日	主な行事	日付	曜日	主な行事
1	金	図書集会 避難訓練（二次避難） 委員会	16	土	土曜授業日（参観なし） ドリームジョブ（5年） 消防団出前授業（3年）
2	土		17	日	
3	日	文化の日	18	月	
4	月	休日	19	火	放送朝会
5	火	放送朝会 縦割り班会議①（5・6年）	20	水	
6	水	朝読書① 午前授業	21	木	午前授業 個人面談①（6年進路面談）
7	木	朝読書②	22	金	音楽朝会 午前授業 個人面談②
8	金	朝読書③区研究発表会&5校時のみ公開	23	土	勤労感謝の日
9	土		24	日	
10	日		25	月	午前授業 個人面談③ すくすくスクール（全学年 13:15~）
11	月	縦割り班会議②（5・6年） 飼育ふれあい会（18日まで）	26	火	放送朝会 午前授業 個人面談④
12	火	放送朝会 フレンドタイム 茶道教室（4年）	27	水	午前授業 個人面談⑤
13	水	人権標語掲示（12/7まで）	28	木	クラブ発表①
14	木		29	金	探究学習紹介集会 委員会 社会科見学（5年）
15	金	児童集会 クラブ	30	土	

生活指導部より

オールクリア

3年担任 広瀬 裕美

今月の生活目標は「オールクリア」です。オールクリアとは、教室を離れるときや下校するとき、机の上に出ているものをしまっ、何も無い状態にすることです。机の上をきれいにすることが、ロッカーの中や廊下のフックにかけている物を整理する気持ちにつながります。教室環境が整った状態で学習に取り組むことが、集中力にもつながります。

子どもたちには時間にゆとりをもつことで整理整頓ができること、また整理整頓をしておくことで時間にゆとりがもてることを話しています。自分から進んで整理整頓ができるようになってほしいと思います。

リレーコラム「かかわる・創る」

6年担任 藤田 貴城

「小学校生活最後の体育祭！！」と意気込む6年生。体育祭に向けての準備では、「下級生とどのように関わっていけば」「どのように伝えていけば」と試行錯誤する様子が見られました。関わり方、応援についてなど、過去の6年生達の様子を参考に話し合ったり相談したりしていました。当日は前日の荒天を吹き飛ばすほど、堂々とした立ち振る舞いで「全員でかかわる・創る」体育祭となりました。人と「かかわる・創る」力はこれからの社会を生き活躍していくには、不可欠な力です。探究的な学習など、学校行事から日々の生活までみんなで「かかわる・創る」ことで成長していく機会がこの先もあります。一人一人が主体的に活動できるよう指導し、支えていきます。